

高等学校課題研究ハンドブック Chapter 4

テキストレビュー：課題図書を批評する

4-1. テキストレビューについて（課題図書をレビューする）

高校生の皆さんへ、Chapter 4からは各論として、各種のレポート作成法をできるだけわかりやすく解説したいと思います。最初にとりあげるのは、大学のゼミや入学前教育などで課題図書が示され、「本を1冊選んで、その本をもとにレポートを作成せよ」と指示される場合、いわゆる**テキストレビュー**です。

テキストとレビューの意味、そして読書感想文との違い

さて、「テキスト」と「レビュー」という言葉は、どちらも英語が語源です。テキスト(text)は「**本文、原典、典拠、教科書、指定研究図書**」等の多様な意味があります。一方レビュー(review)は「**再調査、復習、回顧、批評、検査、再審理**」とこちらも多様ですが、テキストレビューと二つの言葉が続ける場合、「研究論文や研究書などを正確に理解するために有効なテキスト批評と呼ばれる読解技術」を意味します（関西学院大学総合政策学部、2012）。他者のテキストをレビューすることが、リサーチ・レポートの第一歩なのです。

ところで、テキストレビューに似た課題に『**読書感想文**』があります。これは子供たちに読書を奨める教育方法の一つとして、「読書感想文を書くことを通して思考の世界へ導かれ、著者が言いたかったことに思いをめぐらせたり、わからなかったことを解決したりできる」ものとされています（青少年読書感想文全国コンクールHPから）。ただし、あくまでも主観的な「感想」がメインである感想文ですから、ここで紹介するテキストレビューとは、「感想」と「批評」という点で、目的などが大きく異なってきます。

レビューの対象と目標

ところで、レビューの対象も、例えば、（1）数ページの**小論文**の場合もあれば、（2）分厚い本から**一章**だけ選んでレビューする場合があります。この場合は、特に重要だと判断した章を選んでレビューすることになります。一方、（3）何百ページもの本全体を概観する**ブックレビュー**などもあります。

レビューの目標も多様です。まず、（1）演習（ゼミナール）での**研究スキルのトレーニング**を目的とするケースが挙げられます。一方、学年が進むにつれ、（2）進級論文や卒業論文等の準備作業としての**文献サーベイ**¹もあります。この場合、いくつもの論文を比較しながら、自分の研究の方向性を考えます。さらに（3）公刊を目的としたブックレビュー（いわゆる「**書評**」）だったり、（4）1つの分野の研究の流れを概観、理論の変遷等を紹介して、将来の道筋を論じる**総説論文**まであります。

そこで、Chapter 4では、大学への学びをめざす課題として、きわめて初歩的なテキストレビューを中心に説明していきましょう。

¹ 文献サーベイとは、既存の論文（先行論文などとも呼びます）を広く調べることです。そして、それらの既存論文についての調査をまとめた論文を、サーベイ論文（総説論文）と呼んだりします。

4-2. テキストレビューで抑えるべきポイント

さて、課題図書で指定された本など、長いテキストを全体的にレビューする際には、次のような7つのステップを押さえることが重要です。

(1) タイトル

テキストレビューのタイトルを、対象であるテキストのタイトルと同一にする必要はまったくありません。むしろ、あなたの問題意識を明確に示す個性的なタイトルをお薦めします（タイトルこそ、**読者**＝先生・上司・同僚・顧客へ送る最初の**メッセージ**なのです）。とくに、**疑問形**のタイトルがお薦めです。疑問形にすると、自分自身にとっても問題意識を明確にすることになりますし、また、読者に対してもメッセージ性を強めます。さらに、タイトルと**サブタイトル**を工夫するなど、様々な工夫が考えられます。

なお、最初からタイトルを決定する必要はありません。むしろ、仮のタイトルでレビューを書き始めて、だいたい形が整ってから、あらためて全体を概観して、自分の研究テーマや問題意識をより強調するタイトルを考えた方がよいと思います。

例4-1. 文献検索に便利な Google Scholar という検索エンジンで、「シリア難民、フランス、受け入れ」をキーワード（下記参照）にして入力すると、以下の文献がヒットしました。

小山晶子・武田健「ヨーロッパへの避難民の分担受け入れをめぐる問題：なぜEU諸国で立場がわかれたのか」『産研論集』43、2016、pp.18-27。

「ヨーロッパへの避難民の分担受け入れをめぐる問題」というタイトルで大づかみの方向性を示し、「なぜEU諸国で立場がわかれたのか」というサブタイトルで絞り込み、読者の注意を惹きつけています。サブタイトルが疑問形であることもお気づきですね。

(2) テキストの書誌データ

テキストレビューでは、文献目録や脚注にそのまま使えるように、書誌データを記録しなければなりません。読者が同じテキストを簡単に入手して確認検証できるほか、あなた自身にとっても、通常かなりの手間がかかる文献目録や脚注の作成が簡単になります。

具体的には、本の奥付（おくづけ；「書物の終わりにつける、著者・著作権者・発行者・印刷者の氏名、発行年月日、定価などを記載した部分」『広辞苑』）をコピーしておく便利です。右は『基礎演習ハンドブック』の奥付です。これを引用文献等としてきちんとした書式にすると、以下のようないくつかのタイプになります。このうち、最初の例が Chapter6 で紹介している引用法にあたります。

基礎演習ハンドブック 改訂新版	
さあ、大学での学びをはじめよう！	
2012年 5月15日 改訂新版第一刷発行	
2013年 11月20日 改訂新版第二刷発行	
編者	関西学院大学総合政策学部
発行者	田中きく代
発行所	関西学院大学出版会
所在地	〒662-0891 兵庫県西宮市上ヶ原一番町 1-155
電話	0798-53-7002
印刷	協和印刷株式会社

関西学院大学総合政策学部編『基礎演習ハンドブック改訂新版

さあ、大学の学びをはじめよう！』関西学院大学出版会、2012。

関西学院大学総合政策学部編（2012）『基礎演習ハンドブック改訂新版 さあ、大学の学びをはじめよう！』関西学院大学出版会。

なお、引用文献はレポートの末尾に文献表としてまとめますが、その際、著者名を五十音あるいはアルファベット順に整理して下さい。

(3) キーワード

キーワードは、テキストレビューの要点を明示するものです。同時に、自分自身が書き

ためた原稿を一つのストーリーでまとめる際の道しるべでもあり、読者にとってのメッセージともなります。もちろん、Web等で文献を検索する際の手掛かりとしても有効です。

(4) テキスト（課題図書）の要約

次がテキストの要約です。要約といっても、なかなか難しいかもしれません。とりあえず、以下の要領で進めていきましょう（上記の河野、2002も参照）。

- ①**概要をまとめる**：テキストの流れに沿って、著者の主張の重要ポイントを整理します。慣れないうちは、著者の考えをごく自然に、箇条書きに並べましょう。もっとも、概要だけで終わってしまうと、読者（先生）から「あなたは、たんに、著者の主張を鸚鵡返しにまとめているだけではないですか」と問われてしまいます。そこで、次ぎに自分の考えをベースに著者の主張を再構成するのが絞り込み要約です。
- ②**絞り込み要約**：概要をまとめるうちに、あなた自身の**関心**が次第に固まってきます。そのうちにテキストレビューとしての議論の着地点（**仮説、結論**）が見えてくれば、どんどん焦点を絞りこみます。自分で考えた仮説や、そこから導かれる結論・主張をもとに、著者の主張を検証・反証するための論点を抽出していきます。
- ③**統合**：概要作成と論点の絞り込みが進むと、(a) 著者の意見を客観的にまとめながら、(b) それをベースにどんな考察を展開すべきか、自覚することができます。この過程で基本方針が定まれば、次はテキスト評価のためのポイント整理の作業です。

(5) テキスト（課題図書）を評価するためのポイントを整理する

(4)まで整理したら、ご自分の目線でテキストを**評価するポイント**が見えてきたはずですが。さらに浮かび上がる未解決の問題点や別の解釈の可能性等を検討し、列挙します。こうしたポイントが多いことは、そのテキストが参照対象、あるいは批判対象として重要だということを意味します。

(6) テキスト（課題図書）に対する評価

テキストレビューでもっとも重要な点です。あなたは、課題とした文献にどんな評価をされますか、上記(5)で列挙したポイントから自分自身の研究にとって重要と判断されるものをベースに評価します。主なスタイルは以下の3つに大別されます。

- ①**賛成評価**：著者の主張に**賛成する**ポイントです。ただし、「賛成です」とだけ書き、著者の議論を繰り返しても、読者（教員）から「発展性がない」と評されるかもしれません。賛成であっても、著者が気づいていない長所を評価したり、残された課題やさらに議論が発展する可能性等を指摘します。さらに反対意見も想定し、予想される反論やそれに対する再反論等を加えて、レポートとしての価値を高めます。
- ②**反対評価**：あなたが著者の主張に**反論したい**と考えるポイントです。まず、①批判の要点とその理由、論拠を明示します。②次に、あなたが考えた批判への著者の応答（**反批判**）を予想します。最終的に①と②を比較しながら、自分の批判がどれくらい妥当なものであるかを判断します。
- ③**評価のまとめ**：①**賛成評価**と②**反対評価**の双方をふまえて、テキストを全体的に評価します。とくに重要なことは、常識等に縛られた結論にならないように、様々な立場を理解・尊重しながら、客観的にレビューすることです。なぜなら、私たちが常識や共通の利益として承認し共有する事柄の多くは、私たちの先人たちが、多く

の可能性から選び取り、形づくってきた正解の一つですが、ほかにも同等の、あるいはさらに優れた正解があるかもしれないからです。

- ④**資料の追加**：これらの作業を進めるうちに、課題図書以外の資料（文献でも、Web資料でも）の追加も考えて下さい。レポートではそうした資料を“引用文献・引用資料”として、本文中に引用箇所を明示するとともに、巻末に引用文献・資料リストを付け加えて、より明確なメッセージや新たな情報を伝えることができます。

（7）全体を一つのストーリーにまとめること

最後に、テキストレビューとして一つのレポートとしてまとめなければなりません、なにより大事なことは全体のストーリー（筋書き）を一貫させることです。

まず、（4）と（5）から、p.4で説明したレポートの“**結果**”をまとめます。そして、（6）でまとめたあなた自身の評価から、課題図書を取り上げた理由や図書の概要、そしてレポート全体の問題意識を示す“**序**”と、あなた自身の評価や主張を中心とした“**考察**”にまとめます。その場合、テキストレビューは以下のように構成されます。

1. **タイトル**：テーマを明確に示すように工夫。
2. **キーワード**：読者などにテーマやトピックを端的に示すキーワードを提示する。
3. **序（はじめに）**：課題選択の理由や著者の主張、あなたの議論の方向性を提示する。
4. **（課題図書の）内容**
 - ・その図書の概要を説明して、あなたが考察したいテーマへ絞り込む。
 - ・著者の主張への賛成・反対のポイントやあなたが気づいた新しい視点等を説明。
5. **考察（議論、結論）**
 - ・課題図書について全体的な評価をおこないます。そして、課題図書から得た新しい視点や残された課題、それらを踏まえたあなた自身の主張等をまとめます。
6. **引用文献・資料リスト**
 - ・課題図書の書誌データ
 - ・自分で追加した引用文献・資料の書誌データ

この時、**序** → **内容** → **考察**の流れにそって、読者を誤解・混乱させることなく、一つのストーリー（筋書き）で納得させることが重要です。

4-3. 引用文献・Web情報

引用文献

関西学院大学総合政策学部編『基礎演習ハンドブック改訂新版 さあ、大学の学びをはじめよう！』関西学院大学出版会、2012。

河野哲也『レポート・論文の書き方入門（第3版）』慶応義塾大学出版会、2002。

小山晶子・武田健「ヨーロッパへの避難民の分担受け入れをめぐる問題：なぜEU諸国で立場がわかれたのか」『産研論集』43、2016、pp.18-27。

学術論文などを探するための検索サービス

Google Scholar：<https://scholar.google.co.jp/>

2018年3月

編集：関西学院大学総合政策学部・関西学院千里国際高等部